

安定期気管支喘息患者のカプサイシン咳感受性に対する prostaglandin E1 誘導体経口投与の影響

石浦嘉久¹⁾、藤村政樹³⁾、山本宏樹¹⁾、芝靖貴¹⁾、大倉徳幸²⁾、笠原寿郎²⁾

富山市立富山市民病院呼吸器内科¹⁾

金沢大学附属病院呼吸器内科²⁾

独立行政法人国立病院機構七尾病院³⁾

【目的】 咳嗽は主要な呼吸器症状の1つであるが、その発生機序の詳細は明らかではない。経口Prostaglandin E1 誘導体は気管支喘息患者の気道過敏性を改善する事が知られているが、咳感受性に対する作用は不明である。このため、カプサイシン咳感受性に対する prostaglandin E1 誘導体経口投与の影響について検討した。

【対象と方法】 安定期気管支喘息患者21名 (49-81歳；平均 72.2歳) を対象とした。既報の方法によりカプサイシン咳閾値を測定した後に、prostaglandin E1 analogueであるlimaprost 30 μ g/日または対照薬を2週間 cross-over法で投与した。

【結果】 limaprost 投与により気管支喘息患者の呼吸機能は有意に変化せず、カプサイシン咳閾値も有意に変化しなかった。

【考察】 気管支喘息患者の気道において、prostaglandin E1は咳受容体感受性に関与しないことが示唆された。